

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

| | |
|--------------|---|
| 会 議 名 | 第 8 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 4 期） |
| 開催日時 | 令和 2 年 1 1 月 2 6 日(木) 1 8 時 3 0 分～1 9 時 5 0 分 |
| 開催場所 | 高松市役所 3 階 3 2 会議室（W e b 会議システムを併用） |
| 議 題 | （ 1 ） 第 4 期 の 振 り 返 り に つ い て |
| 公開の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 上記理由 | |
| 出席委員 | 徳倉会長、穴吹副会長、大石委員、大崎委員、河田委員、 桑村委員、笹川委員、田中委員、瑞田委員、中村委員、 西谷委員、宮井委員、若林委員 |
| 市職員 | 上原、美濃 |
| 事務局 | 長井局長、多田参事、宮脇補佐、三浦係長、松下主任主事 |
| 傍聴者 | 0 人 （定員 2 人） |
| 担当課及び 連絡先 | 産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1 |

審議経過及び審議結果

- 1 開会
（事務局から欠席委員について報告）
- 2 議題（1）第4期の振り返りについて

【会長】

本日が第4期U40の最後の会になります。今年は最後の年だったので、本当は去年いただいていた、いろいろアイデアのいくつかを、こうやりましょうみたいな年だったのですが、このコロナ禍で活動的なものが一切できておらず、会議自体も、なかなかタイミング的にできなかったのも、非常に難しい一年でした。

メールも事前に届いたと思うのですが、そういったことも踏まえて、今日は、第3期からのメンバーや第4期からのメンバーの皆さんに、これまでの活動を振り返っていただきながら、もっと次の第5期、はこういうふうにしたらいいのではないかと、こういうことはよかったので続けたらいいので

はないかとか、こうしたかったけどできなくて残念だったなどといったことでいいので、一言ずつお話をいただきたいなと思っています。

【委員】

私は4年間U40を務めさせていただいたので、第3期と比較してしまうのですが、第4期は、自分自身がなかなか主体的に関わることができなかったという反省に尽きると思います。少し欠席が多くなってしまったことと、特にアイデア出しやアイデアをまとめていく会があったのですが、大事だと思われる会議に欠席してしまったので、自分自身も主体性に欠けてしまうところが出てしまったと思います。会長が、第3期の時に「できない理由より、出来る方法を」っていうことを最初に言われたことが、今でも心に残っています。第4期の時は、出来ない理由を自分自身で作ってしまったので、反省に尽きる第4期だったなと思っています。

改善点という所ですが、このようにオンライン会議にしてもらったことで、参加しやすくなったということがある一方で、コミュニケーションが不足してしまっているなと思っています。今回、初めて御一緒させていただいた委員の方がいらっしゃるのに、話さないまま終わってしまったなど、すごく残念に思っています。U40は、Facebookのグループもあって、そこでコミュニケーションをとることができ、自分自身、そこで発信しないといけない立場だったのですが、出来ていませんでした。他の委員の方で「近況報告してくださいね」みたいなことを投稿してくれて、コメントが活発に出たりしたのですが、そういうことができたかなと思いました。

いろいろと事業とか形を作っていくかといけないと思うのですが、こういう中でもU40が一つのチームだということの中で、コミュニケーションを取る方法を作っていくかといえないかという思いはすごくあるので、第5期は、そういうところに気をつけていただけたら、チーム感が出てくると思います。

【委員】

今回、初めてこのU40に参加させていただいて、不完全燃焼と思っています。それはやはり、コロナ禍の中で自分自身の生活スタイルというのがすごく変わってしまった中で、なかなか参加できなかった部分があり、来期は少しでも関わっていきたいという思いがあります。その中で、最初に提案させていただいた、「やさしい日本語」というものを実際に受け取っていただいて、実現させていただいたということは自分の自信になりましたし、次に継続していけるよう

にさせていただきたいと思っています。本当に皆さんからたくさんのごことを学ばせていただいたので、次も頑張りたいと思います。

【副会長】

私も不完全燃焼を感じています。第4期は、第3期の活動報告と同時に始まったのが、第1回でした。やはり、第3期の実績というのは、メディアに掲載されるなど晴れ晴れしい実績だったというのは、私と同じ第4期から参加されているメンバーからしても、U40とはこういう会なのだという強い認識がありました。私にとっては、そういった活動が、今回、コロナ禍でできなかったということは残念だったし、不完全燃焼を感じるころでもあります。あとは、コロナ禍のせいで、回数が少なくなったり、オフラインでしか会えない中で議論したりすることの難しさを感じています。限られた時間の中でやることの難しさを感じました。

あと、来期に向けての改善点とすれば、第4期は第2回で、もうアイデア出しに入ってしまったが、その前段に、各メンバーの課題を共有するような回があってもよかったのかなと思っています。そもそも、創造都市というものは、なぜ目指さなければならないのかとか、我々U40という年齢制限がついた会議にとって2050年問題という、例えば、人口減少、社会保障費問題、年金問題、インフラ老朽化などいろいろな社会課題がある。その中で高松市の創造都市推進ビジョンというのは、どういう位置づけなのか？そういった将来と今をつないだ中に高松市の創造都市は何を目指しているのかを理解する。それに対してワールドカフェで意見を共有するとか、そんな回があってからのアイデア出しならよいのかなという思いがありました。あと、市役所メンバーがアイデアを出すことができなかったということも、残念なことだったと思っています。

やはり、議論の土台となるベースをお互いが共有して、お互いが何を考えているかということ共有してこそ、一人では出せないような新しいアイデアが生まれるのだと思います。それをU40という年代区切りがある公式な会で議論することによって、目指すべき市民と行政のコミュニケーションの形を生み出せたら面白いなと来期の活動をイメージしています。

【委員】

私は第3期からいまして、会の方には2回ほどしか足を運んでいません。でも出会いの中で、今回、委員の方と知人を通じて知り合ったとか、自分がやりたいと言ったお花畑を作りたいということ覚えていてくださって、お花畑にも足を

運んでくれ、実際に、その花畑が新聞に載ったりして、いろいろな人が見に来て香南町の祭りにしようという話が来年ある中で、また地域のつながりであったりとか、高松のイメージアップであったりとか、心の豊かさとか、コロナ等いろいろなことがあります。知らない人に元気を与えるような地域づくりをしていきたいと思いました。こんなご時世ですが、近所の方からも、きれいだねとか話しかけられることが多くなるなど、そういうことがうれしいなと思うようになりました。なかなか、直接会えない方がたくさんいらっしゃるのですけれども、これからもつながりを大事にして、個人個人のコミュニケーションや言われた一言が心温まるというか、会えなくてもつながっているような気がしました。なので、自分の仕事にも集中しながら、周りの人とのつながりを大切にしたいと思いました。来期はないのですが、お会いできて大変刺激になりました。これからも、どこかでつながることは出来るでしょうし、委員でなくても地域をよくしようとか、もっとこういう活動をしたらよいのではないかと、一人一人が自分事として考えていくことが大事かなと思いました。

【委員】

お花畑の話は、すごく私も印象に残っていたアイデアだったので、その時に提案者の方はいなかったのですが、あの人なのだと覚えていたので、すごすご縁だったなと思っています。

個人的には、第3期は確かに華々しい雰囲気を外から見させてもらっていたのですが、みなさんがおっしゃるように、コロナ禍の部分もあるし、確かに第4期は不完全燃焼の部分があるのかもしれないですが、個人的にはいろいろなつながりが、この会議に来ることで得られたと思っています。委員の方ともいろいろな場面で、話をしてもらうこともよかったですし、最初のアイデア出しの時も、市役所U40の方で相談に乗ってくれた方もいらっしゃって、関係課の方とも会議以外でも、会いに行って話を聞いたりとかする中で、その課が何をやっているのかを知ることができたということも、ここに来なかったら知らなかった部分だったと思います。そして、皆さんに丁寧にいろいろと相談に乗ってもらってうれしくなったし、あとは、自分が去年やったマルシェに、委員の方で外国の文化を子育て家庭に紹介するようなブースを出していただいて、子育て家庭にもインドネシアの楽器や食べ物を紹介する機会を得ることができました。もともと知っていたという方もたくさんいたのですが、アジアの話をすることができました。また、特に個人的なつながりではないのですが、こえび隊の活動や工芸ウィークのこととかも、いろいろなところに書いていたりするけど、何をしているかとい

うことに興味を持ったり、あえて突っ込んでみたり、チラシ等を送っていただけるので、それを他の人に配ったりする中で、皆さんに知らない分野のことを知ることができたという部分もあります。最後の方には、来期の話、候補メンバーも含めての話も最近出来るようになってきました。

市に関して大きいことが出来たわけではないかもしれないけど、私の中では、やってよかったと思う部分がけっこうあって、自分自身のつながりを持つことが、私に関わる子育て家庭の人たちへ、皆さんのエッセンスを少しずつお届けする事ができた。また、市役所の方々のやっていることや考えていることも、少しでも勉強する事ができたと思っています。ようやく、一緒に何かできることがないかなという入口に立てた気がするので、withコロナのように、全部やめるとかではなくて、できることも出てくると思うので、コミュニケーションをしっかりとりながら、私たちの関係性やアイデアを市に反映できるような第5期を楽しく作っていったらなと思っています。

【市役所U40】

第4期に我々からアイデアを出す機会というのは、そもそもなかったところがあるので、あまり発言することもなくて、正直、第4期は何をしたっけぐらいの気持ちになっています。ただ、そう言いながら、コロナ禍ということで、あまり皆さんと関われなかったというのがありまして、そういうことを言うと、実際に会わないと、いろいろと難しいのだからってというのは、現実的にはあるように思っています。リモートとかオンラインとかっていう形で、今、世の中はどんどんそれでやっていけるといいうところもありながら、なかなか、それだけじゃ難しいというのがわかってきたことも一つ。次の新しい何かを生み出す中で、役に立つのではないかなと思います。前期の第3期の時の伝統とか、そういう話もありながら、創造都市という形の中で何か生み出そうというところで、U40の若い人の力と言っても、結局、その伝統などに合わないといけないということが実はベースになるということは、次の会議の時に生かしたらよいのかなと思っています。

市役所のU40について言うと、非常に参加率が低かったような気がします。私は、おそらく1回を除いてほぼ参加しているはずなのですが、毎回2人ぐらいしかいないという形だったので、在り方というか、その存在意義というものを、もう一度、再定義しないと、正直、来る意味がない状態になっていると思っていますので、事務局側でもしっかり考えていただきたいというところがあります。あと、直接皆さんにお会いできたので、いろいろな人がいるってことよく分かりました。会議以外でも、もっと直接的にみんなが活躍したらよいのではないかと

ということと、他の委員会でも入ってもよいのではないかということは、思うところがありました。あと、会議自体が、第3期はいろいろ作り上げるなどいろいろなことをしましたけれども、本来の形としては、今の形なのかなとは思っています。ただ、第4期の形は、最後までテーマがぼやっとしたままで終わってしまっていて、その辺は市側が、わざとはっきりさせなかったのかもしれないですけど、何を求めているかとか、何に向かっているかということが、ずっとぼやっとしている状態なので、みんな不完全燃焼なのかなと思っています。

事務局には、そのことと市役所U40の位置付けの、この二つをもう一度考えなおしてもらいたいと思っています。そうでないと、こういう人を集めました、こういう人と知り合い、市役所としては楽しかったですとか、市役所はいろいろな人の提言を聞いていますっていうアリバイ作りみたいになってしまうので、そうじゃないんだってことを、もう一回考えていただきたいと思っています。U40の方同士が会うということは、いろいろと新しいことを生み出していますので、よいと思うのですが、もう少しうまくやっていかないと、価値が高まらないというか、せっかくの会議がもったいないと思うので、それはどっちかといと、市役所側の責任なので、ぜひとも第5期の中では、これまでの意見も踏まえながら、また新しいものに取り組んでいただけたらありがたいのかなと思います。

私は第3期、第4期とやらせていただいて、第3期の事業の中でパラ陸上競技選手権大会を見に行ったりする機会がありまして、陸上自体も見たことがなかったという状態で、こういうのがなかったら見に行っていないと思うのですが、実際に家族で見ると、音も聞こえる、躍動感が伝わってくるということを見て、すごく楽しそうにしている、私も本当に楽しかったので、本当にこうやっている機会を持って、自分になかった世界を見せていただいたのは本当によかったと思います。もっともっと交わる、フランクに関わることができるような、いろいろな機会があったらよかったと思っています。

【委員】

私も第3期から2期連続で関わらせていただいたのですが、第3期は事業があって、それぞれの現場に行くことがあるなど、他の委員の皆さんとお話しする機会がたくさんあったので、コミュニケーションがとても取りやすかったなというのがありました。第4期は、こういう状況もあって、なかなか、新しい方々の皆さんとも話す機会ができなかったり、また、積極的にお話ししようということが私自身もできなかったというところが反省点としてあります。やはり、そ

ういう話し合いの場というのは、すごく大事だと思いました。あと、アイデアも、こないだのようなワークシートという形で提出していると思うのですが、アイデア出しの以前に、やはり、皆さんがどうやっているかとか、どういう活動をしているかということとを事前にコミュニケーションを取ったりだとか、高松市がどういう課題を持っているかなどということ、アイスブレイクではないが事前に共有する場があると、次のステップというか、次のアイデアも出しやすいのかなと思いました。オンラインでは、なかなか難しいかもしれないのですが、来期に関しては、そういうコミュニケーションができる場というのが、もう少し増えていくと、次に新しく入ってきた方々も入りやすいのかなと思いました。今回、第4期の皆さんとは、あまりお話とかができていなかったのですが、他の皆さんがおっしゃったようなつながりとかもできて、Facebookでもつながっているんで、今後も仕事で、何かアイデアが欲しい時とか、活動を通して仕事でも出会える機会も出てくると思うので、また、つながっていきたいと思います。

【委員】

私は第3期から参加をさせていただきまして、大変、貴重な経験をさせていただきました。第3期のメンバーの時に、幸いにも屋島陸上競技場において日本パラ陸上競技選手権大会が開催されたことによって、バリアフリーマップの作成など、皆様には大変盛り上げていただき、大変感謝しております。第4期では、コロナ禍であったり、私自身が合宿等で参加できないということも多く、気がつけばもう第4期が終了ということで、振り返れば、何ができたのだろうかというところがあります。ただ、私が、この第3期、第4期のU40に参加することによって、個人的にもパラアスリートの選手会の発足など、競技以外のところで皆さんに障がい者スポーツというものを広く知ってもらいたいということで発足することにもなりました。やはり、U40に参加させていただいたからこそ、他にもいろいろなことをやっていきたいということにつながっていったと思います。非常に貴重な経験をさせてもらい感謝しております。先ほどおっしゃっていただきましたが、U40を通して皆さんに、障がい者スポーツについて少しでも関心が持ってもらえたことは、非常にうれしかったです。

東京オリパラが開催されるかどうかわからないのですが、私としては、来年3月に一応最終選考が開催されるっていうことを願って、残り僅かな期間ではあるのですが、精一杯頑張っていきたいと思いますので、引き続き、皆さんの応援、御支援、よろしく願いいたします。

【委員】

私は、今回から参加して思ったのが、母親ってすごいなと思うことがけっこうありました。私自身、ベンチャー界隈の友人が多いので、お母さん世代の人たちと交流する機会がなかったのですが、今回U40を通して、お母さん世代がどうしているのかを考えているのかという、そういう側面を勉強させていただくことが、すごく新鮮であり、それが実際自分の会社で今、お母さんの人に働いてもらっているきっかけにもなったので、何かすごく自分の会社にとっては、シナジーが生まれるきっかけにはなったと思っています。

ただ一方で、課題として二つあって、一つがやはり、高松市側とのコミュニケーションが全くうまくいかなかったなと思っているので、そこは互いに両者が歩み寄っていく必要があるということの一つあるのと、やはり、自分たちの役割が今回、ちょっとよくわからなかったなというのが正直なところで、実行するところではなく、おそらく今後議論を深めていくみたいところで何か新しいコラボレーションが生まれる、あくまでもきっかけの場所になるのかと個人的には思っています。そこに至るに当たって、これから高松市の財政が厳しくなったりとか、今は40万人都市だけど数十年後にそうでなくなるみたいな話になった時に自分たちは何しなきゃいけないんだろうみたいな、議論を深めていくようなきっかけに、次はできればなと個人的には思いました。

あとは、コロナを言い訳にせずに、私としてはどんどん人と会ったらよいのではないかと思っている人間なので、もちろん三密を避けながら、もっと人と会うきっかけを実施できればと思いました。

【委員】

私も第4期で入ったのですが、2年した気がしないというのが印象です。第3期の内容や実績を見ての参加だったので、何か一個の目標をみんなで決めて、それに向かっていくのかなと思っていたので、陰ながらサポート出来たらよいくらいに思っていたのですが、今回、第4期はそういうようにはならず、積極的に意見も言えなかったのが、印象も薄かったかなという反省点もあるので、第5期は積極的に関わっていきたいと思います。

【市役所U40】

振り返ると、あまり参加できていなかったのが、非常に申し訳なかったです。まず、そもそもU40に入った理由として、第3期の方々とは仕事を通して、非

常に多く関わらせていただいて、その中で興味持って、もっと学びの機会が欲しいなと思って参加させてもらったのですが、あまり参加できていない中、申し訳ないのですが、個人的には今回も勉強はさせてもらいました。普段の業務や日常生活では、なかなか関われない業種の方々とお会いできて、学びは個人的には得られました。ただ、そこから自分がアクションを起こすという点になると、本当に全く何もしてなくて、参加して満足してしまい、そこからみなさんとながりを持とうということが全くなかったのが、反省点、改善点かと思います。これを勉強できたのは、ある意味、貴重な経験であったとは思っています。ただ、それで終わりにするのは、申し訳なさもあれば、ちょっと残念さもあるので、次回以降、参加に当たっては、市の側がオブザーバーとして意見出しの側としてということであれば、それに準じて、逆にもっと意見を出すような役割を任されるのであれば、その時は非常に積極的にやっていきたいなと思っています。

【委員】

私は第3期、第4期と務めさせていただきました。前期に在籍されていた委員の方から、この委員のお話を聞いて、すごく荷が重いと思っていたのですが、大人の部活動だと思って参加したらよいと言ってもらって参加しました。実際、第3期、第4期の中で、特に第3期の活動は、自分の仕事じゃない分野でみんなと議論をしたり、取り組めたりしたので、本当に大人の部活動だったのかなと思います。第4期は高松を離れたので参加できなかった日も多く、皆さんと一緒に何ができたかなと振り返っても、ほとんど申し訳ないと思うことしか出てこないです。アイデア出ししてヒアリングするという機会は持たせてもらったので、それは印象に残っています。突拍子もなくじゃないですけど、誰に相談するでもなくヒアリングに入って、すごく質疑応答されて、こちらとして答えられなかったことが多く、準備不足であったり、どれぐらいのものを求められているのかがわからなかったりというところがあります。それは、不完全燃焼というより、不本意に感じていた部分でもあります。なので、どこに向かって行っているのかが、少しついていけなかったというのが正直な感想になります。

来期に向けての課題というものも、コロナ禍ということがあったので、どういったことが課題なのかもわからないですけども、また皆さんに大人の部活動を楽しんでもらえるとしたら、皆さんのフィールドをもうちょっと見てみるということもあってよかったのかなと思います。それは、U40の仕事としてというよりも、お話しするということや、それぞれの職場に行ってどんな仕事か環境かというのを見ることをしても、アイデアの種が増えていったのかなと思います。

た。

皆さんと同じ感想なのですけれども、今回のメンバーの皆さんの御名前を見ると、新聞やテレビで活躍されている方が多くて、見つけるたびにすごくうれしくなったり、誇らしく思っていました。個人的には、楽しく活動できたと思います。

【委員】

第3期、第4期含めて4年間ありがとうございました。まず、反省と来期についての話なのですが、私としては、まずお詫びから入るのですが、第3期に仕事PJ事業のリーダーを務めさせていただいて、かつ経理も同時にさせていただいたのですが、5人のメンバーにもかかわらず一番大きい予算を取ってきて、最後、経費でもめるという事がありました。第4期については、本当に集まっていたいたみなさんには、力不足なところがあり申し訳ないと思っていますところ

です。
来期の話について言うと、第3期と第4期の大きな違いは、集まる回数の部分だったかなと思っています、集まる回数が少なくなった時に、やはり目的や価値提供の定義づけをどうするかというところが一番肝要の部分になっているところ

です。予算を取りに動いていくのか、予算以外で別にしていくのか、提言をしていくことに振り切るのか、メンバー同士の情報共有に特化するのかというところで、おそらく必要な時間が変わってくるように思います。
第3期に関しては、会長と高松市との調整だと思うのですが、丁寧にしてくださって、予算取りに行くという中で、個人的には動きやすくて、一枚岩でできたなと感じました。また、第3期は予算が確定する前だったので、2か月で打ち解けられる場を作ることができたのは大きかったと思います。

もう一つ言うと、個人的にはU40の財産は人だと思っています、ここに集まっている人が魅力的だということが実は大きい要素だと思っています。第4期の提案事項で何を上げたかという、第4期までのメンバーは何をしているか、それぞれどういうプロジェクトをしているのかについて紹介するサイトを作った方がよいという提案をさせていただきました。今回、成就是しなかったのですが、第5期以降で模索を続けていただければ幸いです。

最後になるのですが、会長への感謝を伝えたいなと思っています、第3期のときにこれだけの形にして、第4期にコロナ禍でこれだけ流動的になった部分があって、この4年間、他の誰がやられても、絶対うまく回らなかったであろう部分をやってくれたし、メンバーとして動いていても心強かったです。感謝の気持ち

でいっぱいです。私は、この第4期で委員をはずれると思うのですが、これまでの積み重ねが第5期に確実につながるだろうと思っているので、第5期以降の皆さんの動きをお手伝いできることは御協力したいと思っています。

【委員】

私は、第3期、4期と合わせて、3つ話をしたいと思います。

まず一つが、スポーツプロジェクトなのですが、私はプランナーとかプロデューサーという立場で入らせてもらって、ありがたいことに素晴らしいスポーツプレイヤーと出会う事ができて、パラの大会もあるということで、屋島で行われたパラのイベントに向かって一緒にみんなプロジェクトを進められ、結果を残すことができたというのは、すごくよかったと思っています。その中で第3期に関わってくださった方は、総動員で一緒にやってもらったり、チラシを配ってもらったり、セミナーに参加したりと、全体的にいろいろな人が参加したり関わったりすることが多かった任期でもあったので、お互いにどういうことをしている人かということが一緒に動きの中で知れたのは、大きな収穫であったのではないかと思います。今年もありがたいことに、第3期でのスポーツプロジェクトでの実績をスポーツ振興課の方が評価してくださって、オリンピックは流れてしまっているが、引き続き関わって欲しいというお声がけをいただいたり、御提案いただいたりいたというのは大きな収穫だったのではないかと思います。

二つ目が、横展開なのですが、私も第4期に入るまで「やさしい日本語」とか全然知らなかったし、興味を持って接したりもなかったのですが、お互いの活動が知れば、こういうことが役に立つ、力になれるという関わりを持つことができると思うので、横の展開ができることをU40では大事にしていければよいのではないかなと思います。私は第4期で卒業ですが、自分自身にとってすごくよかったことなので、うまく関わりながら残していけるということを残していただけるとありがたいと思います。

最後、三つ目に、今回は人数が少ないという事もあったが、市役所の方の関わりが少なかったということがすごく残念で、第3期では人数が多かったのと、一緒に立場で一緒に提案をしていただいたということが私にとって大きかったです。私も結構、市役所の知らないことが多かったし、不躰な願いをしてしまったこともたくさんありましたが、結論から言うと、一緒に1メンバーとしてプロジェクトを動かしてもらったことが大変勉強になりました。1メンバーとしてプロジェクトを動かしていく中で、市役所のメンバーの方にすごく力になってもらうとよいポイントがたくさんあって、自分達では知りえないこと、分からないこ

と、人の紹介、書類の提出、作業の手順等の提案をたくさんいただきました。そのことは、一個人としても仕事をする上でも大変勉強になったので、本当に感謝していますし、戦友、仲間だなと思っているし、前回の第3期の終わりのプレゼンでも市長と副市長に知って欲しくて何度もお伝えしました。U40のプロジェクトというのは、確かに10年、20年後の高松市をとというのはもちろんですが、市役所の方と一緒に進めていくということが意味のあることで、私が10年、20年この市で年を重ねて行ったりとか、このまま仕事を続けて行ったりする時に、やっぱり信頼ができて分かっている人が市で働いているということが、すごく心強く、自分が今後、何かをするときに信頼を得られるというのは大きなことなので、その点でも私は市の職員の人に入っていたくのは、大きなメリットだと感じています。

【会長】

今日、欠席されている方からは、御発言いただけませんが、おそらく、第3期、第4期から御参加の皆さんからも、それぞれ、同様の御意見があるのではないかと思います。私からもいくつかあって、第3期と第4期ともに会長というところでやらせていただいて、いろいろな変化がありました。例えば、平成から令和に変わるとか、そういうことも含めていった中で、メンバーももちろん変わっていきますし、進め方もがらりと変えないといけませんでした。その中でも、こういうコロナ禍が起きたというところで、第3期と同じことが第4期ではできませんでした。でも、よくよく考えると、第2期のいろいろな反省点を生かして第3期は運営しようっていうことを、実はすごく意識をして運営させていただきました。第2期で失敗したことを生かして運営させていただきましたが、第3期が成功したか成功しないかっていうのは、もっと10年ぐらいしたら分かるのではないかと個人的には思っています。その部分での変化が、第3期でうまくいったところとうまくいかなかったところを、もっと、こういうふうにしたいのになというところが、いろいろな社会的な状況の中で、そこをうまくこう生かしきれなかったっていうのは、本当に何か力不足な面だったり、コミュニケーションを取りにくかったりというところを言い訳にしながら、できなかったということはすごく反省点だったので、逆に、5期に引き継がれる皆さんには、今、いろいろ御意見が出てきたコミュニケーションとか、高松市と民間委員の立ち位置とかっていうところを、そのまま引き継ぐのではなくて、よりよくコミュニケーションしていただきながら、第2期から第3期が変わって、ある程度うまくいったと僕は思っていますが、その時のように、よりよい改善をしていただければうれしい

なと思います。

その中で参考になるか分かりませんが、二つ僕の中で意識をしていたことがあって、先ほど誰かがおっしゃっていましたが、実は第3期に、最初にすごくみんなに会ったのです。U40の会議以外でも会いました。それは意図的にそういう場を作って、場所は市役所を介してっていうところで、多分、最初の2、3か月で4、5回会っている。もっと細かいグループでは、もっと会っているメンバーもいるかもしれないです。その中で、この人はこういう仕事をしているのだな、こういう特徴があるのだな、こういうことをやりたいのだなと、一生懸命に情報収集をしました。

その次が2点目になるのですが、難しい言い方をすると権限移譲ですけど、皆でグループに分かれましょう、ただ、そのための大きな方向性は、私が取りまとめていきますから一任してくださいねっていう形でやらさせていただきました。それが、当時、第3期でいらっしゃった方々はよくわかると思うのですが、リーダーの4名の方々がすごくアクティブに、すごく大変だった。でも、そういうふうチームを作って行って、そこで目標を持って物事に取り組んでいけたということは、これは予算があるとかないとかではなくて、そういうことをできたということが、第3期はよかったなと思います。逆に言うと、第4期はそういう方向性がなかなか定まらない中で、第3期と同じことができないけれども、アイデアを出していく中で見つけていこうということでアイデアを出していきました。しかし、いろいろな状況の中で、一斉に集まって会えない期間ができてきたりだとか、最初想定していたものができなくなったりという中で、今日を迎えています。

その中でも、私としては「やさしい日本語」とか、お花畑の話っていうのは、すごく大きなヒントだと思うのです。今まで知らなかった知見を教えてもらったから、「やさしい日本語」って大事だよっていう中で、一気に市役所の中でも広がりましたし、メディアでもたくさん取り上げられるようになって、実際の現場で「やさしい日本語」を使っているツールがあったりする時に、やっぱりこうやって広がっていくのだなと感じました。お花畑の話で言うと、U40の会議の中ではリアルに会えなかった二人が、いろいろな縁を通じて形になっていく時の一つのフックというか、きっかけになったのがU40だったのではないかと思ったときに、これはすごくうれしかった。そういうふうに意見を出すだけではなくて、どうやったら人と会えていくのか、会えなくてもどういうふうにコミュニケーションをとっていくのかっていう中で、多分、高松市のいろいろな委員会があると思うのですが、このU40の中で、どんどん新しい事にチャレンジをしながら

ら、このWeb会議システムで会議をすることも、市の中では一番最初ぐらいですよね。これから社会が変わっていく中で、もうちょっとこれがどんどん主流になっていくかもしれないのですが、どんどん、新しいこととトライアンドエラーみたいなところを繰り返しながら、創造都市とはどういうことなのだろうっていうことを、一つずつ形作って、何かバトンのようなものを、次に託せたらうれしいなというふうに思っています。

いろいろなよいこともちょっと苦いことも、ここでたくさん経験させていただきましたけれども、何よりも、第3期も第4期も本当にメンバーに相当恵まれて、ここまで来させていただきました。先ほど、御礼を言ってくださった方がいらっしゃいましたが、逆に皆さんがいてくださって、この会議が成り立っていたので、第3期と第4期のメンバーの方に心から感謝と御礼を申し上げます。第5期に残られる方は、今後、よいところは引き継ぎつつ、うまくいかなかったことはよりよく、新しい形で改善をしていただいて、また、そのメンバーが地域で、社会で、それぞれのところで活躍しながらシナジーを生んでいけるような、そういう会になっていただきたいなというふうに思っております。

【副会長】

第3期の成果発表の時のリーダーの発表が、いろんなヒントに溢れるキーワードがあったのをすごく覚えていまして、今日の会議もそういったキーワードがちりばめられていたなと思っています。例えば、第3期の工芸ウィークのところですごく印象的だったのが、普段は競合相手でしかなかったお店がU40（平等性のある活動）という名目で横串を刺すことができ、一緒になって面的な活動が出来るようになった。各店舗での活動ではなく、エリアとして、高松として、戦略をどう打っていくかということが出来るようになったということがすごく革新だったとおっしゃっていて、そのようなU40にしか出来ない役割というのを見つけられれば、面白いなと感じたことを思い出しました。

今回、いろんな難しい局面がありましたけど、これをどう乗り越えていくかということ、U40で初めてWeb会議システムを使ったということもそうですが、そういった爪痕を残すということをしていけたらなと思います。個人的には、こうやって、そうそうたるメンバーの方が先輩にいらっしゃるの、このつながりというのは将来的に、何か使えるときがきっとあると思いますので、第5期では先輩方にいろいろ力を借りながら、御一緒できるメンバーの方と第5期らしいことをできたらよいなと個人的には思っています。

【事務局】

閉会に当たりまして、皆様方に御礼を含め御挨拶させていただきたいと思えます。今回が、この第4期としての最後の会議となりますが、委員及び市職員のメンバーの皆さんにおかれましては、この2年間にわたる任期において、それぞれの御仕事や活動を生かしながら、本市の活性化に資するアイデアを御発案いただくなど、役所の変革の火種として、精力的に取り組んでいただきましたこと、本当に心から厚く御礼申しあげます。

皆様の御意見にもございましたように、残念ながら、今年は新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、一部のアイデアの実施が延期となり、また、この懇談会自体も、これまでのように皆様にお集まりいただいて熱い議論をする場を開催できませんでした。これも御意見の中にごございましたが、今回のようにWeb会議システムを役所の中でも、先進的にいち早く取り組んだということで、今後におきましても、こういったWeb会議システムの活用なり、新しい生活様式を取り入れる中で、会議の開催方法についても一つの方向性が見えてきたように思っております。来年以降は、ワクチンの開発等によりまして、今の状態が回復し、皆様方がまたお集まりいただくような会議ができることを心より念願しているところでございます。

御存知のとおり、本懇談会においては「2期縛り」として、4年間の任期を満了された方は御卒業になられる運用になっております。今回の第4期で終了となります方々におかれましては、4年間本当にありがとうございました。皆様からいただきました御意見、発想、また、それにより得られた気づきを今後の創造都市の推進に生かしてまいりたいと存じておりまして、皆様方には引き続き、U40のOB、OGとして、第5期U40の活動にも御協力いただければ幸いです。また、第5期も継続して活動をしていただける方々におかれましては、普段の仕事等、御多忙のところ恐縮ではございますが、引き続き、本市の創造性を高めるため、若い世代の柔軟かつ創造的な発想を基に自由闊達な議論をいただきたいと思っております。

本市の創造都市も、今年で9年目に入って、来年は節目の10年目でございますので、第1期から第4期、それから第5期へとメンバーは変わりますが、皆様の創造都市や高松市への対する思いは、ずっと引き継がれておりますし、明るい未来、また、持続可能な都市高松の発展にとても寄与していただいております。市長も同様の思いを強く持っているとは何度も聞いております。このU40自体が、全国的にも珍しいということもおっしゃっていただきましたけども、こういう若い世代が集まる場を大事にする中で、市の職員と皆様方との関わりも大事に

していきたいと思えます。U40をきっかけに、高松市役所としても変わっていかねばいけぬ時期に來ていると思えますので、そういったつながりを生かしていきたいと私自身も強く思っております。最後になりましたけども、皆様方のさらなる御健勝、御活躍を心より御祈念申しあげまして、御礼の御挨拶とさせていただきます。

3 閉会